石算研だより

石教研算数部会事務局
江別市立豊幌小学校内
2019年10月11日（金）
NO.4
文責　　中村　玲太

石算研 実技・理論研修会終了しました

８月２３日（金）に、今年度の実技・理論研修会を実施しましたので、当日の様子などをお伝えいたします。今年度の講師は、筑波大学附属小学校から 大野 桂 教諭をお招きし、師範授業、パネリスト、理論研…あらゆる角度からご教授いただきました。

新たな試みとして石算研からの提案授業を、江別市立豊幌小学校５年生 中村 学級「分数の大きさとたし算、ひき算」の導入場面で行いました。授業後には、恵庭和光小 吉田 教諭にもパネリストとして加わっていただき、大野 教諭とともに授業づくりについてパネルディスカッション形式で事後研を実施。部会員のみなさんとともに、改めて授業づくりについて考えを深めることができたのではないでしょうか。

特設授業「比」６学年 髙橋学級　指導者：大野教諭
「国旗を作る」作業を通して、比の導入場面を公開してくださいました。縦と横の見方は、差と倍の２つの見方があることに気づき、「同じ形」という場合には、倍の見方が適切であることを学習しました。昨年度の実技理論研講師、学芸大附属金井小 加固教諭が提唱された「どうしてそう思ったの？」と子どもたちに問うことで、数学的な見方、考え方が働くことも実践してくださいました。

パネルディスカッション（パネリスト；大野教諭、和光小 吉田教諭、石算研 中村、司会：石算研 山﨑）
石算研の研究主題に沿う形で５年生の算数の授業（授業づくり）について考えました。「教師のコーディネート力」を磨くことが対話的な学びを生むことにつながることや、「誤答につき合う覚悟を持つ」ことなど、参考になるお話ばかり。「指導案は『案』だから」の言葉も印象的でした。

参加者アンケートでは、「とてもよい構成だった。授業とパネルディスカッション、講演という流れは今後も続けてほしい」「小さな問いをどうコーディネートしていくかということを今後実践していきたい」「パネルディスカッションは授業を振り返りながら話していてわかりやすかった。もう少し聞きたかった。」「授業対決という企画にチャレンジする気持ちがすばらしいと思う。今後も新しい試みを続けていただきたい。」「大野先生の子どもの思考を大切にする授業をライブで見ることができ、刺激をうけました。」等、今回の新しい試みに対するご意見、ご感想や今後の日常実践についての記述が多数ありました。これらを励みに、また次年度以降に生かしていけるよう、役員で検討していきます。ご参加ありがとうございました。